

【変更前】	変更内容	【変更後】
第1編 計画の基本的事項 1 基本計画策定の趣旨 2 基本計画の性格・位置づけ 3 基本計画の対象地域・期間 4 基本計画の構成		第1編 計画の基本的事項 1 基本計画策定の趣旨 2 基本計画の性格・位置づけ 3 基本計画の対象地域・期間 4 基本計画の構成
第2編 環境を取り巻く状況 1 環境の現状 2 国内外の動き 3 前計画の成果と今後の課題	【検討委員会の意見を反映】 「地域循環共生圏」の概念、必要性等を記載 集約 「環境の現状」は「国内外の動き」と類似した内容のため集約	第2編 環境を取り巻く状況 1 国内外の動き 2 前計画の成果と今後の課題
第3編 重点テーマ くまもとの豊かな地下水を未来へ守り、育て、生かす		第3編 重点テーマ くまもとの豊かな地下水を未来へ守り、育て、生かす
第4編 分野別計画		第4編 分野別計画
第1章 ゼロカーボン社会・くまもとの推進		第1章 ゼロカーボン社会・くまもとの推進
第1節 地球温暖化対策の推進【区域施策編】 1 熊本県の温室効果ガス排出量の現状 (1) 2050年熊本県内CO ₂ 排出実質ゼロ宣言 (2) 地球温暖化と気候変動の現状 (3) 「緩和」と「適応」を両輪とした対策の推進 (4) 熊本県の温室効果ガス排出量の現状 2 2050年ゼロカーボンに向けたロードマップと目標等 3 温室効果ガス排出削減に向けた部門別取組み 4 温室効果ガス排出削減及び吸収等に向けた横断的な取組み 第2節 県の事務・事業における温室効果ガス排出削減（地球温暖化防止に向けた県庁率先実行計画）の推進【事務事業編】 1 再エネ設備の導入 2 省エネ設備の導入（LED、空調等） 3 公用車の電動化 4 その他（県有施設のZEB化、再エネ電力の調達）	これまでの取組みや排出状況、削減目標などを整理し、目標達成に向けた取組みを明確化 追加 集約	第1節 地球温暖化対策の推進【区域施策編】 1 地球温暖化対策の現状 (1) 2050年熊本県内CO ₂ 排出実質ゼロ宣言 (2) 地球温暖化と気候変動の現状 (3) 「緩和」と「適応」を両輪とした対策の推進 (4) 熊本県の温室効果ガス排出量の現状 2 2050年ゼロカーボンに向けたロードマップと目標等 3 温室効果ガス排出削減に向けた部門別取組み 4 温室効果ガス排出削減及び吸収等に向けた横断的な取組み 第2節 県の事務・事業における温室効果ガス排出削減（地球温暖化防止に向けた県庁率先実行計画）の推進【事務事業編】 1 これまでの取組み 2 対象となる事務・事業 3 県の事務・事業における温室効果ガスの排出状況 4 温室効果ガスの排出削減目標 5 目標達成に向けた取組み
第2章 サークュラーエコノミー（循環経済）への移行の実現	廃棄物処理計画に合わせて節名を追加 「サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進」は、これまでの取組み「廃棄物の排出抑制・再利用・再生利用、熱回収の推進」等とは概念が異なり、廃棄物処理計画の項目と合わせるため、節名を追加。 小節名は「廃棄物処理計画検討委員会」で検討中。	第2章 サークュラーエコノミー（循環経済）への移行の実現
第1節 サークュラーエコノミー（循環経済）の推進 1 サークュラーエコノミー（循環経済）への移行に向けた基盤づくり 2 廃棄物の排出抑制・再利用・再生利用、熱回収の推進 3 廃棄物の適正処理の推進 4 バイオマスの利活用の推進 5 災害廃棄物の適正処理	追加	第1節 サークュラーエコノミー（循環経済）の推進 1 サークュラーエコノミー（循環経済）への移行に向けた基盤づくり 第2節 適当な廃棄物の処理等の推進（検討中） 1 廃棄物の排出抑制・再利用・再生利用、熱回収の推進 2 廃棄物の適正処理の推進 3 バイオマスの利活用の推進 4 災害廃棄物の適正処理
第3章 熊本県の未来を未来につなぐ自然共生社会の実現		第3章 熊本県の未来を未来につなぐ自然共生社会の実現
第1節 森林、水辺等の自然環境の保全 1 保全のための総合的な対策の推進 2 多様で豊かな森林づくり 3 二次的自然環境（里地里山や阿蘇の草原など）の保全・再生 4 野生鳥獣の保護・管理の推進 5 水辺環境の保全・再生 第2節 生物多様性の保全に係る対策の推進 1 生物多様性の保全 2 生物多様性の恵みの持続的な利用 3 生物多様性を守り生かす社会づくり		第1節 森林、草原、水辺等の自然環境の保全 1 保全のための総合的な対策の推進 2 多様で豊かな森林づくり 3 二次的自然環境（里地里山や阿蘇の草原など）の保全・再生 4 野生鳥獣の保護・管理の推進 5 水辺環境の保全・再生 第2節 生物多様性の保全に係る対策の推進 1 生物多様性の保全 2 生物多様性の恵みの持続的な利用 3 生物多様性を守り生かす社会づくり
第4章 安全で快適な生活環境の確保		第4章 安全で快適な生活環境の確保
第1節 水環境に係る対策の推進 1 健全な水循環の確保（安定的な水の確保） 2 水質の保全策の強化（きれいな水を守る） 3 豊かな川と海づくりの推進（有明海・八代海再生） 第2節 大気環境に係る対策の推進 1 大気環境の監視 2 発生源ごとの対策 第3節 オゾン層の保護対策の推進 第4節 騒音、振動、悪臭、光害などの対策の推進 第5節 土壌汚染対策の推進 第6節 化学物質・放射性物質の環境リスクの評価・管理 第7節 水銀フリー社会の実現に向けた取組み 第8節 緑と水のある生活空間の保全・創造 第9節 良好な景観及び文化財の保全・創造		第1節 水環境に係る対策の推進 1 健全な水循環の確保（安定的な水の確保） 2 水質の保全策の強化（きれいな水を守る） 3 豊かな川と海づくりの推進（有明海・八代海再生） 第2節 大気環境に係る対策の推進 1 大気環境の監視 2 発生源ごとの対策 第3節 オゾン層の保護対策の推進 第4節 騒音、振動、悪臭、光害などの対策の推進 第5節 土壌汚染対策の推進 第6節 化学物質・放射性物質の環境リスクの評価・管理 第7節 水銀フリー社会の実現に向けた取組み 第8節 緑と水のある生活空間の保全・創造 第9節 良好な景観及び文化財の保全・創造
第5章 リスクに備えた社会づくりと球磨川流域における「緑の流域治水」の更なる推進		第5章 リスクに備えた社会づくりと球磨川流域における「緑の流域治水」の更なる推進
第1節 気候変動の影響への適応策の推進 1 基本的事項 2 熊本県の特徴 3 気候変動適応に関する分野別施策 第2節 大規模災害への備え 1 自然生態系の活用やエネルギーの確保等による災害時への備え 2 災害廃棄物の適正処理 第3節 「地域循環共生圏」の構築の促進 第4節 球磨川流域における「緑の流域治水」の更なる推進	【検討委員会の意見を反映】 地域循環共生圏の構築に係る取組みのうち、「リスクに備えた社会づくり」に係る取組みについては、第2節に統合して記載。第3節は削除。 【検討委員会の意見を反映】 「地域循環共生圏」の概念、取組みは持続可能な社会実現に向けた「仕組みづくり」であり、複数の章（第1～5章）の施策に関連する。このため、仕組みづくりを記載する第7章において、各章の「地域循環共生圏」に係る施策を取りまとめて記載。	第1節 気候変動の影響への適応策の推進 1 基本的事項 2 熊本県の特徴 3 気候変動適応に関する分野別施策 第2節 大規模災害への備え等 1 自然生態系の活用やエネルギーの確保等による災害時への備え 2 災害廃棄物の適正処理 第3節 「地域循環共生圏」の構築の促進 第4節 球磨川流域における「緑の流域治水」の更なる推進
第6章 環境立県くまもと型未来教育		第6章 環境立県くまもと型未来教育
第1節 未来を支える人づくり 1 未来を支える熊本の人づくり 2 地域資源を活用した環境教育・学習の充実 3 水俣病をはじめとする環境に関する様々な課題への対応 4 情報発信の充実 第2節 豊かなくまもとを守り育てる地域づくり		第1節 未来を支える人づくり 1 未来を支える熊本の人づくり 2 地域資源を活用した環境教育・学習の充実 3 水俣病をはじめとする環境に関する様々な課題への対応 4 情報発信の充実 第2節 豊かなくまもとを守り育てる地域づくり
第7章 持続可能な環境の創造に向けた仕組みづくり		第7章 持続可能な環境の創造に向けた仕組みづくり
第1節 環境アセスメントの推進 第2節 試験研究機関における取組み 第3節 研究情報のネットワーク化 第4節 国際協力の推進		第1節 「地域循環共生圏」の構築の推進 1 「地域循環共生圏」の構築に向けた基本的な取組み 拡充 2 分野別の「地域循環共生圏」の取組み 1～5章に係る施策を記載 追加 第2節 環境アセスメントの推進 第3節 試験研究機関における取組み 1 保健環境科学研究所 2 産業技術センター 3 農業研究センター 4 林業研究・研修セン 第4節 研究情報のネットワーク化 第5節 国際協力の推進